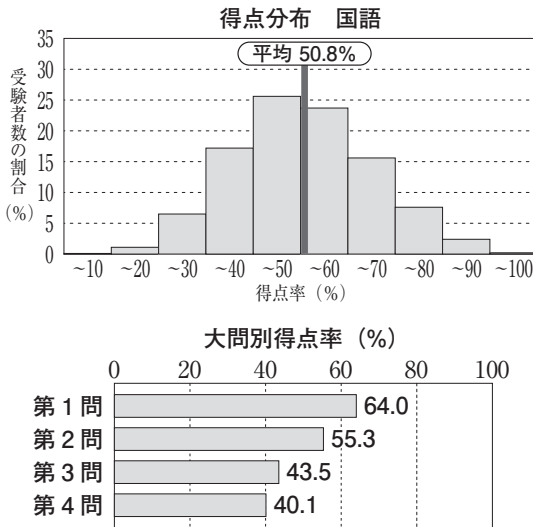


夏に勉強したことを確認し、今回の結果も踏まえ、秋から計画的な問題演習で得点力を上げていこう！

I. 全体講評

この夏の総決算である「第四回八月センター試験本番レベル模試」の成績はどうだったであろうか。平均点は一〇一・五点であった。

今回は前回と比べて、点数が下がったが、特に、古文・漢文の古典分野で落としている人が多かった。古文・漢文でそれぞれ一問ずつ近く誤答



が増えた計算である。一問というたいしたことのないように感じるかもしれない。しかし、読解問題は一問が七点・八点と、配点が高い。二問得点点が違くと大きな差になる。古典分野は知識をきちんと身につければ確実に得点できるようにするところが多いので確実に得点したい。知識で不十分などがある人は、早急に知識事項を身につけ、それを使ってこの秋、多くの問題を解いていくことで、一気に得点力を上げていこう。

現代文では、評論は前回同様に得点出来ていたのは良かった。論理的読解の訓練がこの夏できた人が多かったようだ。小説は前回よくできていたことからすると残念であった。小説も本文を根拠に解くことを徹底すれば必ず成果は出る。感覚的な読み方をして得点が伸びなかった人はそのことを肝に銘じ、この秋、小説問題も確実に得点できるように、センター試験の過去問などを利用して、演習をしよう。

9月になった。今月末にはセンター試験の出願も始まる。ここからは今まで勉強したことを土台に、過去問などの問題演習を通して、得点力を上げていかねばならない。まずは夏にやったことを確認し、今回の模試でそれを点数に変換できたのは、どの分野か、夏に勉強したのに点数にならなかったのは、どの分野で、その原因は何か、ま

た、夏の勉強が出来ていなくて得点できなかった分野はどこかなど、しっかりと確認しよう。そして、この秋、どのように勉強を進めるか計画を立てよう。ここからは問題演習が大切だが、ただ、問題をたくさん解くだけでは得点力は上がらない。成果を出すためにも、現代文の本文を根拠とする読解法、古文の単語・文法、漢文の漢字・句法など、問題演習をする前提となるものを確実に身に付ける必要がある。早急にそれを身につけ、演習を進めるようにしよう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)
最後に物を言うのは単語力！ 選択肢の一句の意味をしっかりと検討しよう！

問1の漢字ではア「証言」の正答率が、二六・五％と非常に悪かった。①の「心証」を「心象」と間違えたり、④「補償」を「保証」と間違えたりした人が多かったようだ。「補償」「保証」「保障」の使い分けは必ずできるようにしよう。(エ)「画して」も三六・六％と悪く、④「間隔」を選んだ人が二九・四％もいた。本文中の「断絶を意図している」という意味をしっかりと読み取りたい。問2も正答率四六・二％と悪かった。誤肢①を

選んだ人が二八・八%、④を選んだ人が一八・六%もいたが、いずれも細かい部分に間違いを含む誤肢であった。センター試験の選択肢文は長い、その一つ一つの言葉の意味をしっかりと検討していかなければ安定的に正解できない。また、この間の最大のヒントは第二段落冒頭で、傍線部からやや離れていたのも正答率が落ちた要因だろう。

問3は正答率七〇・八%と良くできていた。誤肢③を選んだ人が一七・三%いたが、「まずは傍線部『へいま』を具体化しよう」と考えていたならば、「へいま」が内包する「可能性」について全く触れられていないことに気づけたはずだ。

問4も正答率七二・三%と良くできていた。誤肢④を選んだ人が一六・五%いたが、「目的論」とは何かをもう一度よく考えて欲しい。

問5も正答率七五・三%と良くできていた。誤肢①を選んだ人が一四・四%いたが、本文とよく照らし合わせて、「時間の蓄積が必要」という内容が無関係な内容であることに気づいてほしい。

問6(i)は正答率六五・三%と今ひとつであった。①②③は正しい内容で、いずれも本文中に確実に根拠がある。間違った人は本文中の根拠を探そうとしたかどうか反省しよう。(ii)も正答率五八・三%とあまり良くなかった。正解選択肢②に「命題」という言葉があるが、この言葉に面食らった選べなかった人もいたのではないだろうか。現代文であっても最終的に得点を左右するのは単語力であることを肝に銘じよう。本文の構成を問う問題では、筆者の主張をしっかりとつかんだ上で、それぞれの段落の位置づけを考えていこう。

第2問 (小説)

「厳しめのトレーニングで、素早い読解力に磨きをかけていこう！」

得点率は五五・三%で、評論より低調であった。文章量は約五八〇〇字程度で例年のセンター本番並みだが、会話部分が少なく、内面描写中心であったため、概要把握に時間がかかったようだ。また、現代とは少し違った時代背景で、実感を持たなかったのかもしれない。ただし、そうした事情は本年度のセンター試験と大差はない。

問1では(i)の「立志伝中の人」が正答率が低かった。「立志伝」とは成功を収めた人の伝記のことだが、比喩的な意味で使われることが多い。

問2は正答率四五・三%で、誤答は⑤が目立っていた。「悪の要素が多く潜んでいることに深く悩んでいた」が言い過ぎ。②は「悪を求めることを自分で認めない」というほど「潔癖」とは言えない。

問3の正答率は七一・六%と高かった。ただし、②の誤答が目立つ。教師にとって伝えたくない複雑な事情があることを知った「私」は、気まずい雰囲気になることを避けたのである。

問4は正答率は四八・一%で、③の誤答が多い。「母が」用筆筒への愛着をかすかに感じながらも」には十分な根拠がない。

問6の表現・内容に関する問題は二つの解答とも正答率は低く、④は二二・八%、⑥は四八・四%である。本文は「私」の内面の告白であるが、底に母に対する思慕が流れていることをふまえて考えてほしかった。誤答では③が目立った。現在の「私」の心性は過去に影響されて形成されたに

せよ、それが「小学校時代の出来事」にだけ限られているわけではない。

第3問 (古文)

出来事の原因と結果を、主語と時制に気を付けて整理しよう。

『石清水物語』の、女主人公の出生にまつわる経緯を紹介する場面。得点率は四三・五%と伸び悩んだ。

問1の語釈問題は語彙が鍵となる。(ア)と(イ)は六割、(ウ)は四割ほどの正答率であった。誤答でやが多いのは(イ)「心づきなし」なら⑤「気にもならない」、(ウ)「さうざうし」なら①「胸騒ぎがする」など、現代語に近い感覚で解答しているものである。語彙は確実な得点源にしたい。

問2は敬意の対象の問題で、正答率は一五・七%にとどまり誤答も分散した。特にeは「はしたなめられ奉りて」で、受身の助動詞「らる」が入ったために為手と受手の判断で混乱したようだ。またbは主語が北の方から左大臣に戻っているが、文脈からの判断ができなかったようである。

問3は「ただならず」が妊娠を意味する表現であることを知っていればすぐに正答できる問題であるが、三割程度の正答率であった。②と④は宰相の君の不遇への変化という文脈が不可。

問4は宰相の君の姉の説明問題で、四割の正答率であった。③は、姉の上京の理由が夫の死となっている点が誤り。常陸に妹を誘っている点からも夫は存命。本文にない推測は厳禁である。

問5は左大臣が相人に占いをさせ、生まれてく

る姫君を探し出そうと考えたことを読み取る問題で、五割程度の正答率であったが、宰相の君が占めたとする③への誤答がやや多かった。敬語の用い方で主語が判断できることに注意しよう。

問6は内容合致問題で、正答率は四割にとどまった。誤答は③に集中した。宰相の君は確かに乳母の家に行くが、姉の助言ではない。姉の助言に従ったのはその後の常陸に行く際である。時制・原因・結果を整理して読み取る。

第4問 (漢文)

傍線部は、語彙・句法からの解釈と、文脈の大きな流れの中での理解を合わせて行おう。

王安石「芝閣記」の一節で、聖王の瑞祥とされる靈芝に対する人々の狂騒に見る、士人の扱いについての文章からの出題である。得点率が四〇・一%と低く、かなり苦戦したようだ。

問1の語の読みの問題は、(ア)「輒(すなわち)」の正答率は六割弱、(イ)「焉(これ)」は四割を切った。特に「焉」は用法が多い。この文脈では「求む」の目的語であることから考える。

問2は語の意味の問題である。(ア)「希世の有力の大臣」の対比である「山農野老」は⑤への誤答が三割を超えたが、これは「野老」の意味だけでなく不足がある。正答の「一般の庶民たち」は二割強にとどまった。(イ)天下すべてを表す「九州四海の間」は正答率四割を超えたが、限定的な場所を指す②・③・⑤への誤答も合計で四割を超えた。

問3は、用法の多い「幾」について文脈から判断する問題で、正答率は四割強であった。靈芝が

取り尽くされてしまったはずが、全く反対の取り尽くせなかったとする③への誤答が三割を超えている。真宗にへつらう人々の行動から考えたい。

問4は、直前の仁宗の意向を受けて、封禅を勧めなかった理由を問う問題で、正答率は約三割、誤答も分散した。傍線部時点で靈芝について、仁宗の意向は書かれていないことに注意しよう。

問5は部分否定「不復：」の読みと解釈の問題で、正答率は五割近かった。部分否定は八割程度できていたが、靈芝が見向きもされなくなった点から、瑞祥であることを忘れられた内容でなければならぬ。

問6は、趣旨の説明の問題。これは正答率三六・〇%であり、誤答も分散した。靈芝についての説明の「豈に時を以てならずや」に注目できたかどうかが鍵である。「時」は人為的な「時流」であり、それに乗れるか否かである。誤答が集まった②は原因が己れ自身にあるとするもので、「時流」の要素がない。また時流の要素があってもそれを天運とする④も誤答が集まった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆国語は、センターレベルを固めることが、二次・私大対策に直結する！

今回、ある程度結果が出た人は、そろそろ「センターレベルを完成させる」ことを意識してほしい。国公立二次試験や私大で国語が必要な人は、そろそろ二次・私大対策に取りかかりたいところだが、「センターレベルが仕上がった」という手

応えが感じられないまま二次・私大対策に突入しても、成果は出ない。センター試験は基礎レベルではない。センターレベルをきっちり固めることは、国語では他教科以上に二次・私大対策に直結する。二次・私大の過去問研究を進めつつ、一月二九日の全国統一高校生テストでは満足できる得点が得られるよう、九月十月の勉強を進めよう。

一方、この夏国語の勉強が十分ではなかった人は、九月十月がラストチャンス。ここで現代文・古典ともに、読解のための重要知識、読解方法をなるべく早く叩き込んで、次回の全国統一高校生テストで結果を出せるようにしよう。

◆センター試験の実戦的学習も始めよう！

これからの時期、センターレベルの克服とともに、センター試験で点数をとるための訓練も重要だ。そのポイントは「時間配分」と「漢文」だ。時間配分や解く順番を考えて解くことができているだろうか。八〇分の中で効率よく問題を解いていくところにセンター試験・国語の難しさがあふ。過去問演習の際は、最も意識してほしいポイントである。

また、漢文は句法などの暗記項目を修得すれば必ず得点に結びつく分野である。短期間で大きな成果を上げることが可能。漢文を効率よく解き、他にいかに時間を回せるかに意識を向けてほしい。そのことがセンター国語の得点を最大化することにつながる。